

中国南北朝隋唐 陶俑の研究

小林 仁 著

▶ B5判・458頁／定価：本体13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1790-8 2015年2月刊行予定

始皇帝の「兵馬俑」で知られる俑は、死者とともに埋葬される副葬明器で、中国の南北朝から隋唐時代は質量ともにその黄金期である。近年各地の葬墓から続々と出土例が報告され、とくに考古学的手法による研究の蓄積が著しい。これに対し本書は、豊富な実物調査に基づいて、膨大な数の資料を造形的特質、様式の変遷、地域性などによって整理し、豊富な図版とともに美術史・陶磁史的視点からさまざまな論点を提示。分裂から統一へとダイナミックに転換する時代のなかで生じた変化と連続性を跡づけ、新たな陶俑研究の確立を目指す。

○●予定内容目次○●

序 章

俑について／陶俑研究史序説／本書の目的

第I部 南北朝時代の陶俑の様式変遷と地域性

第1章 洛陽北魏陶俑の成立とその展開

洛陽遷都以前の北魏陶俑／洛陽北魏陶俑に関する先行研究／洛陽北魏陶俑の特徴／洛陽北魏陶俑に関する諸問題／表：洛陽遷都後の北魏陶俑一覧／図版

第2章 北朝鎮墓獸の誕生と展開—胡漢融合文化の側面

北朝鎮墓獸の草創期／北朝鎮墓獸の展開／図版

第3章 南北朝時代における

南北境界地域の陶俑について

—「漢水流域様式」試論

対象墓葬分布と歴史背景／各墓葬の概要／陶俑に関する考察／各墓葬の年代をめぐって／表：漢水流域南北朝墓葬出土陶俑一覧／図版

第4章 南朝陶俑の諸相—湖北地区を中心として

襄陽賈家冲南朝画像磚墓出土の陶俑について／武漢地区出土の南朝陶俑／図版

第5章 北齊時代の俑に見る二大様式の成立とその意義

—鄴と晋陽

北齊俑の出土分布／鄴と晋陽の俑の比較／北齊俑の制作技法／二大様式成立の背景とその意義／表：北齊陶俑出土墓葬一覧／図版

第6章 北齊鄴地区の明器生産とその系譜

—陶俑と低火度鉛釉器を中心に

北齊鄴地区の陶俑とその系譜／北齊鄴地区の低火度鉛釉器とその系譜／図版

第II部 隋唐時代の陶俑への新たな視座

第7章 隋俑考—北齊俑の遺風と新たな展開

隋俑に見られる北齊の俑の影響／隋俑の新たな展開／表：隋俑出土墓葬一覧／図版

第8章 白瓷の誕生

—北朝の瓷器生産の諸問題と安陽隋張盛墓出土白瓷俑

白瓷誕生に関する諸問題／安陽張盛墓出土の白瓷俑について／図版

第9章 初唐黄釉加彩俑の特質と意義

黄釉加彩俑の出土例／黄釉加彩俑の位置づけ／図版

第10章 唐代邢窯における

俑の生産とその流通に関する諸問題

邢窯遺址出土の俑／河北唐墓出土の俑／邢窯初唐俑の流通／表：河北地区出土唐俑一覧／図版

第11章 西安・唐代醴泉坊窯址の発掘成果とその意義

—俑を中心とした考察

醴泉坊窯址について／出土遺物について／出土した俑についての考察／俑の年代について／俑の制作技法について／図版

第12章 唐時代の俑の制作技法について

—陶範成形を中心に

唐時代の陶俑陶範の出土／陶範成形実験の概要とその成果／図版

結 語

あとがき／初出一覧／索引

こばやし・ひとし…1968年東京都生。国際基督教大学教養学部人文科学科卒業、成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻博士課程前期修了、北京大学考古系留学（中国政府公費留学生・高級進修生）、成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻博士課程後期単位取得退学、2013年帝塚山大学人文科学研究科博士（学術）学位取得。1997年大阪市立東洋陶磁美術館学芸員、2007年同主任学芸員、現在に至る。専門は東洋陶磁史、とくに中国陶磁史。第35回小山富士夫記念賞（奨励賞）受賞。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	中国南北朝隋唐陶俑の研究		本体13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1790-8			
お名前			tel				
			e-mail				
ご住所	〒						
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）		本書HPのQRコード 書店番線印				

高句麗壁画古墳と東アジア

門田誠一著

壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。また先行研究ではなされなかった、同時期の東アジア地域の壁画史料との相関的検討を行う。高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

▶A5判・448頁／本体8,600円(税別) ISBN978-4-7842-1546-1

※陶器全集 [全4巻]

加藤唐九郎他編

昭和6年に陶器研究・鑑賞界で望み得る最高の執筆者をむかえ、はじめて陶磁の世界に近代研究の光をあてた不滅の名著である。初版(宝雲舎刊)の再刊にあたっては、第一線で活躍中の研究者により一部改訂を加え、全巻に新たに索引を付した。

▶菊判・総2,900頁／本体37,000円(税別) ISBN4-7842-0207-2

※蓬萊山と扶桑樹 日本文化の古層の探求

岡本健一著

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボルが、日本の古代文化におよぼした影響の諸相を、歴史考古学的に明らかにする。20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた、元新聞記者でもある著者の研究集大成。

▶A5判・442頁／本体5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1400-6

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁／本体6,300円(税別) ISBN4-7842-0482-2

※九八号古墳(南墳)発掘調査報告書

韓国文化財管理局編

慶州皇南洞第九十八号古墳は瓢形墳で、北墳は1974年に発掘され、既に略報告書も刊行した(品切)。本書は北墳発掘後ただちに発掘を開始した南墳報告書である。主柩・副の設置、古新羅古墳の墓柩構造として初めて確認された板壁や砂利、その他武器類の発掘など、古新羅史・新羅古墳・日韓古代史研究の宝庫である。

▶B5判・72頁／本体2,200円(税別) ISBN4-7842-0322-2

仏教東漸の旅 はるかなるブッダの道

宇野茂樹著

釈迦の聖地を起点に悠久の歴史が遺した信仰の足跡をたどる仏教美術巡礼。仏跡の地図・写真多数収録。【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インドの寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録(インドの早期石窟)

▶A5判・296頁／本体2,500円(税別) ISBN4-7842-0991-3

日中親族構造の比較研究

官文娜著

思文閣史学叢書

近代以降、日本は西洋異文化(近代文化)との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。本書は日中親族集団の構造を手がかりとして、日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、またともに「アジア文化圏」に属する両国の、近代以降における西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。

▶A5判・430頁／本体7,200円(税別) ISBN4-7842-1241-8

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粋がわかる一書。

▶A5判・438頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1439-6

大徳寺伝来五百羅漢図

奈良国立博物館・東京文化財研究所編

江戸時代の補作(6幅)を含めた大徳寺所蔵88幅と、ボストン美術館とフリーア美術館に所蔵される12幅を合わせた全100幅を大型図版で紹介する。一点一点に画題と解説を付し、部分拡大図40点、絹目画像170点も高精細カラー図版で収録。最前線の研究者による論文8本も収録し、美術史や東アジアの文化史・宗教史にも役立つ大著。

▶B4判・312頁／本体50,000円(税別) ISBN978-4-7842-1743-4

※近世京焼の研究

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窠業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田穎川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にする。

▶A5判・434頁／本体6,300円(税別) ISBN978-4-7842-1558-4

※博仏の来た道 白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著

粘土を型押ししてつくられた小さな仏像＝博仏は、インドから中国を経て白鳳時代の奈良・飛鳥に招来された。本書はこの「博仏の来た道」を丹念にたどり、そこにこめられた祈りの諸相を明らかにし、あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。

▶A5判・322頁／本体5,700円(税別) ISBN978-4-7842-1433-4

※東洋学説林

神田喜一郎著

東洋史研究の第一人者が壮年時代に書いた論文の一部を集めて一書とした昭和23年版の復刻。戦後の東洋史研究の基礎を築いた神田博士の論稿は今もなお精彩を放つ。『史林』に発表して以来多くの学者の注目を集めた「明の四夷館」など12篇を収める。

▶A5判・240頁／本体3,200円(税別) ISBN4-7842-0285-4

※慶州地区古墳発掘調査報告書

韓国文化財管理局編

1973年に実施された慶州市内最大の古墳群である皇南洞古墳群中に含まれる主として地下に埋没していた古墳及び仁旺洞、校洞の古墳の発掘調査報告書。それらの古墳は堅穴式石槨古墳、積石木槨古墳、甕棺墓など4～5世紀頃のもので、慶州古墳の編年、墓制の変革・発展、新羅古墳の最も特徴的な積石木槨古墳の発生・変化等を知る基本資料。

▶B5判・412頁／本体12,000円(税別) ISBN4-7842-0323-0

仏教美術を学ぶ

中野玄三・加須屋誠著

『日本仏教美術史研究』(1984年)、『続日本仏教美術史研究』(2006年)、『続々日本仏教美術史研究』(2008年)の刊行に引き続き、50年以上の長きにわたる中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をとおして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。読みやすい文で、仏教美術の入門書としても最適な一書。

▶A5判・348頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1720-5

正倉院染織品の研究

尾形充彦著

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古裂調査(昭和28～47年)や、C. I. E. T. A. (国際古代染織学会)の古代織物調査方法に大きな影響を受けて、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

▶B5判・416頁／本体20,000円(税別) ISBN978-4-7842-1707-6

正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

▶A5判・348頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1658-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。